

伊賀市社会事業協会 2006

2006年8月10日 第11号
社会福祉法人伊賀市社会事業協会
発行者 森下達也
編集責任者 西岡時彦
〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2
TEL 0595-21-5545
FAX 0595-23-6670
URL <http://www.ict.ne.jp/~u-s-j/ueno>

ぶらじる丸二世

社会福祉法人 伊賀市社会事業協会

会長 森下達也

かつて三重県鳥羽市の岸壁には、ぶらじる丸が観光用に係留されていた。正しくはぶらじる丸二世、一〇、二一七総トン、昭和二十九年に進水し昭和四十八年まで移民や一般貨客の輸送に活躍した戦後生まれの大型商船である。内部は見学者への資料展示用に大分改造されていたが、それでも原形を思い起こすには充分であった。私は、多分四、五回であつたか、鳥羽を所用で訪れた際独りぶらじる丸に入り、再び大海へ出ることもないデッキを歩きながら、光と闇の交錯するこの国の半世紀を思い、遠い日の私にかかわる小さな記憶の中の風景をまなうらに描いたりしたものだ。

ぶらじる丸二世というのだから、先代のぶらじる丸一世が存在したわけである。一世は二世よりも大きく、一二、七五二総トン、昭和十四年に進水し南米や北米への航路に就いたが、その美しい船容は世界の造船界の絶賛を受けたという。しかし太平洋戦争勃発の翌年、トラック島とグアム島の間あたりで米潜水艦の雷撃により沈没した。

ぶらじる丸一世には同型姉妹船、あるぜんち丸があつた。戦前の移民船としては最大最速を誇る名船であつたが、これも終戦を目前に別府湾で、米機の空爆を避けられず沈没した。つまり鳥羽湾係留のぶらじる丸の先代は、すべて海底の藻屑となつていたのである。船と共に海に消えたのは、軍人だけではない。誇り高き多くの商船クルーがいたことを忘れてはなるまい。因みに、戦後大陸からの引揚者帰還のために、未だ機雷の浮遊する海で生死をかけたピストン輸送に従事したのは、大戦を生き残った商船隊であつた。

私は、あるぜんち丸に一度だけ出会っている。その当時私は遼東半島の大連市で小学校に通っていたが、多分太平洋戦争に突入する直前の休日の夕方のこと、父が私を大連港へ

の散歩に誘ってくれたのである。父はその日大連港にあるぜんち丸が碇泊したことを知っていたのであろう。私は重々しく光る黒塗りの船体と甲板を忙しく動く船員たちを眺めながら、ただよう異国の匂いにうっとりしていたように思う。だから私にとつての、鳥羽に係留するぶらじる丸は、あるぜんち丸を通して早世した父の記憶が甦る場でもあつたのだ。そのぶらじる丸が鳥羽から消えたことは残念であるが、市場原理の社会の中では止むを得ない。集客力と採算性を推察すれば、むしろよく持ち堪えてくれたものと感謝している。私たちは、競争原理こそが生産性や営業活動を向上させ、社会を活性化する活力源であると考え、自由経済社会に生きている。そのことはしっかりと受けとめておくべきことである。しかし一方、自由経済社会を健全に平和に維持するためには、世の中には競争原理になじまない部分がかなりあることを認め、必要なものはそれを守るべく社会に強い指導理念と規範を持たせ、時には公権力を行使すべきなのだろう。例えば、若者たちの関心を大量に巧みに吸い上げるレジャー産業と、日本の先人たちの心や軌跡を静かに伝えようとするメモリアルを、同次元で争わせることになれば、勝敗は明白だからだ。いわんや福祉においてをや、社会福祉までがそのような愚に陥ることのないよう願うばかりである。



松田 昇 — 城下の夜明け (伊賀市) —

開園記念日

梨ノ木園

梨ノ木園35周年・第二梨ノ木園25周年・梨丘園5周年

7月1日、盲養護老人ホーム梨ノ木園は開園35周年を迎えました。ご家族の皆様のご協力や地元の皆様のお力に支えられ、ご利用者の皆様と一緒にこの日を迎えられましたこと、本当に嬉しく思います。

当日は、当協会の西岡時彦理事長からお祝いの言葉があり、続いてコーラスグループ「サラダ」の皆様による、ミニコンサートを行ないました。地元老人会の方に声を掛けさせていただき、いつもご協力いただいているボランティアグループ「ミックスジュース」、「あゆみ」の皆様も出席してくださいました。ふるさと四季の歌や、美空ひばり特集の曲に懐かしさを感じ、最後の『バラが咲いた』の曲では楽器と手拍子に合わせて皆で歌い、会場がひとつになっていました。ご利用者の方は「本当に良かった！」と言葉を残し、感動そのまま部屋に戻られました。

これからも梨ノ木園が多くの皆様から愛され、ご利用者の皆様が穏やかに、日々の生活を送っていただける施設づくりに心掛けたいと思います。



開園35周年をお祝いして乾杯!!

第二梨ノ木園

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園は、5月1日で25周年を迎えました。屋上のウッドデッキからは、新緑眩しい四方の山々、青々と広がる田園風景と、その向こうに上野城が眺められます。美しい伊賀盆地の景色です。第二梨ノ木園が、皆様方のあたたかいお心に支えられてきたこの25年の歳月は、「皆様からのご厚情、本当にありがとうございます」の言葉に尽きると思っています。過日の開園記念日には、ご利用者の皆様から、今まで一番嬉しかったことを聞かせていただきました。普段あまり話されない方からも「結婚子どもが誕生した時、舅さんがとても喜んでくれた」「お父ちゃんが戦地から帰って来た時が一番嬉しかったわ」などと大切な思い出を話していただき、私たち職員も深い人生を知らされ熱い思いが込み上げてまいりました。社会状況は変化し、高齢者を取り巻く情勢が目まぐるしく変わっていく中で、私たち職員はご利用者の皆様に安心して落ち着いた生活をお過ごしいただき「ここに居て良かった」と満足していただけるよう頑張りたいと考えています。



リズム遊びをするご利用者

梨丘園

空は青空、木々の青葉がゆっくり風にゆれているさわやかな5月15日。身体障害者療護施設梨丘園は5回目の開園記念日を迎えました。当日は梨丘園ラウンジにおいて、梨ノ木園、第二梨ノ木園のご利用者の方をお迎えして、フルートとピアノ演奏による記念コンサートを催しました。演奏に合わせて口ずさんでおられた方、一筋の涙を流された方と感じ方はそれぞれですが、懐かしい曲や心にしみるメロディーを身体に感じていただきました。その後は、テーブルを囲みバイキングでの昼食を楽しまれました。その時の話題はやはり、今年4月からの障害者自立支援法に制度が大きく変わった事です。ご利用者の負担が大きくなり、不安の声も聞かれます。このような厳しい状況の中で、利用者の皆様の不安を少しでも取り除き、安心して生活していただけるよう、職員一人ひとりが努力し、質の高い障害者福祉サービスを提供していきたいと思ひます。



フルート奏者・瀬山登紀子さんと
ピアノ奏者・大森明美さんを囲んで記念撮影



▲職員劇の1コマ



寸劇出演者と記念撮影

『瞼の母』…寸劇、今年も好評

昨年九月に上演した、職員による寸劇『水戸黄門』に続き、五月八日から一週間、母の日特集と題し寸劇『瞼の母』をご覧いただきました。「番場の忠太郎は五歳の時に母親と生き別れになった。それから二十年。母恋しさに旅から旅への渡り鳥…」江戸を舞台にすすんでいくストーリーに、皆さんの目がくぎづけでした。忠太郎が瞼を閉じて男泣きする場面では、ご利用者の中で懐かしいお母さんの思い出が重なり、涙される方、また、職員扮する夜鷹や娘役を見て大笑いする方もみえました。劇が終わってから皆様方に劇で使ったカツラをかぶっていただき、記念撮影。涙あり、笑いありの一週間となりました。

老人デイサービスセンターなしのき

盲養護老人ホーム 梨ノ木園

「新緑を訪ねて」

初夏の上野森林公園へ「新緑を訪ねて」散策に出かけました。さわやかな五月晴れとはいかず、朝からあいにくの小雨でしたが、皆さんの願いが届いたのか、公園に到着する頃には散策できるほどになっていました。緑いっばいで美しく整備された散歩道を歩き、大きく深呼吸をして大自然の空気を体いっぱい吸い込みました。またコテージの中では木材の切れ端を使って、芸術家になった気分でおもしろい木工細工を作りました。そしてお待ちかねのお弁当の到着。「青空の下で食事がしたい」と思っていました。雨が本降りになってしまいコテージの中ですませることになりました。それでも久しぶりの外出先でのお弁当に大満足。ぐずつき模様の天候でしたが、皆さんからは五月晴れの笑顔がたくさんみられました。



甲子園球場13個分の広大な公園で
大自然の空気をいっぱい吸い込みました

いただきます

カルシウム

日本人は慢性的なカルシウム不足で、一日の所要量すら達成できていないと言われています。最近ではカルシウム不足により骨が脆くなる骨粗しょう症の方がふえています。骨粗しょう症を予防するためには日頃からの食習慣や毎日の適度な運動が大切です。カルシウムをたくさん含んだ食事をし、運動をするよう心がけましょう。牛乳や乳製品はカルシウムの吸収率がもっとも高く効率のよい食品です。豆類・大豆製品もすすんで摂りましょう。玄米・納豆などに多く含まれるマグネシウムや魚介類に多く含まれるビタミンDなども合わせて摂ると効果的です。一度、食生活を見直してみてもいいでしょうか。



も合わせて摂ると効果的です。一度、食生活を見直してみてもいいでしょうか。

特別養護老人ホーム第二梨ノ木園

屋上ウッドデッキ完成

この度、第二梨ノ木園では、財団法人車両競技公益資金記念財団様の助成を受け、園舎外壁塗装、屋内階段室壁面塗装、屋上防水、エレベーター更新の補修工事を実施しました。そのほかご利用者の皆様に、いつでも気軽に外気浴をしていただけるように屋上にウッドデッキを設置しました。去る5月21日、梨ノ木園や梨丘園のご利用者とともに完成のお披露目を兼ねて茶話会を開きました。当日は好天に恵まれ、職員が琴を演奏し、園舎の西側には一斉に芽吹いた新緑が迫り、東には上野城と城下の町並み、南と北には、田植えの終わった田んぼの風景を眺めながら、緑茶と伊賀銘菓を賞味していただき、のんびりとした時間が流れました。これからも、ご利用者の皆様とともに、このウッドデッキから四季折々の伊賀上野の風景を楽しみたいと思



っています。皆様方も、当園にお越しの際は、ぜひ一度この眺めをお楽しみ下さい。

さわやかな天候のもと、
完成したウッドデッキの
お披露目の会

二名増員

『ぶにゅとつー』

地域の方々のための在宅介護相談、書類申請の代行などの総合相談窓口と介護保険サービスに関してのご利用・ご相談に関する業務をさせていただいておりますが、今年四月の介護保険制度の改正により介護支援専門員を今までの二名から四名に増員いたしました。新しい制度の中で不慣れな事もありますが、四名がひとつになって、より一層地域のお役に立てるよう頑張りたいと思います。いままで同様どうぞよろしく願い申し上げます。

0595-22-0505



新たな気持ちで頑張っています
お気軽にご相談ください



在宅介護支援センターなしのき

夏野菜作りと食育活動



「赤いのからとるんやで」と声を掛け合う子どもたち

子どもたちは、トマト、きゅうり、なす、ピーマン、おくら、トウモロコシ等々、地域の方にお借りした畑や園庭のプランターでたくさんさんの野菜を育てています。丹精込めて育てた野菜は、皮をむいたり洗ったりして給食に使ってもらいます。

自分たちで作ったトマトを食べる時には、「あれっ、このトマトすっぱいな」「おばあちゃん、赤くなるまでとらんときって言うってたよ」「早くとりすぎたんとちがう」等の会話はずんできました。トマトが苦手な子は、友だちがトマトをおいしそう



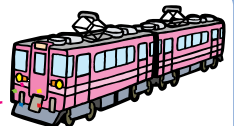
「じゃがいも こんなにとれたよ!」

に食べている様子を見て、そっと箸を運ぶようになつたりもします。自分たちで育てたことで、食材への関心がこんなにも深まっていくものなのかと改めて気付かされました。

近年、栄養摂取の偏り、朝食の欠食、肥満の増加、痩身願望の増加等、食の問題が多様化、深刻化しています。だからこそ乳幼児期に楽しく食に向き合える姿勢が育めるよう、食育実践を進めることが保育園の大事な役割だと改めて確認しました。



サワガニ捕りとギャラリー列車



府中保育園の近くには、サワガニが生息する清流があり、サワガニ捕りが子どもたちの楽しみのひとつになっています。

6月2日、子どもたちは、サワガニをたくさん捕まえようと意気込んで谷川へ降りていったのですが、その気配に気付いたカニは、一目散に逃げてしまったのです。誰からともなく「しーっ!」と合図がかけられ、水草や石をそっとあげてみたり、枝や草で誘い出そうとしたり、子どもたちとカニとの知恵比べが始まりました。約20分ほど悪戦苦闘を繰り返し、50匹ほどのサワガニを捕まえることができました。園に戻ってからも、子どもたちはサワガニのそばを離れることなく、サワガニオンリーの一日でした。

7月4日、サワガニの絵を近鉄伊賀線のギャラリー列車『忍者号』に出展した年長児21名はその絵を見ようと電車に乗りました。同乗していたお客さんから「あんたたちの描いた絵か、上手に描けてるな」と褒めてもらい、子どもたちはとても満足そうでした。



近くの小川でサワガニ捕りに熱中



サワガニの絵が車内に展示されました



ギャラリー列車『忍者号』に乗り込む子どもたち

友生保育園

増築保育室完成!!

ゆめが丘団地の開発に伴ない、ゆめが丘保育所への入所希望が急増しています。待機児童対応はされているのですが、すべてを解消することは難しく、そこで、ゆめが丘地区に隣接する友生保育園に急ぎよ、七十八・七一㎡の保育室を増築し、そのニーズに対応することになりました。六月一日には「増築お祝いの会」を行ないました。総園児数九十九名になり、在園児からは「今日からみんなお友だち、仲良くしよう」と新入園児に語りかけ、保護者や地域の方々からは「安心して子育てと仕事ができるようになりました」と喜びの声が聞かれました。



くす玉を割って増築を祝う子どもたち

11年目をむかえた フレンズうえの 放課後児童クラブ

放課後児童クラブ「フレンズうえの」は平成8年4月、上野市（現・伊賀市）で初めて開所した学童保育施設です。

子どもたちは、家へ帰るときと同じように「ただいま！」と元気に帰ってきます。当初より家庭的な雰囲気がかもしだせるようなコーナー作りをすること、子どもたちが主体的に活動できるよう、日課にもゆとりをもたせること、また、地域と遊離しないよう児童福祉会への参加が自由にできるようにすること等を、基本理念として実施してきました。

近年、兄弟数が少なくなり、また異年齢と関わる機会も少ないこと等、子どもたち同士が育ち合う環境が希薄になってきています。そこで、学童保育では子どもたちが、生活のルールを主体的に決め、遊びを深め合えるようにして、仲間との絆が育み合えるようにしています。

最近、子どもが巻き込まれ、子どもの安全が脅かされる事件が多発し、学童保育への利用希望が急増してきています。今後も「フレンズうえの」が地域の皆さんに期待され、子どもたちの目が輝き、ほっとできる居場所になれるよう努力していきたいと思っています。



自主学習の様子



「ただいま」と笑顔で帰ってくる子どもたち



友生保育園園舎全景（左が増築部分）

刺股（さすまた）講習会
利用者の安全を守るために

六月七日、刺股講習会を、曙保育園ひまわりホールで行ないました。「福祉や教育保育の現場で、こんな講習会をやらなければならない事はつらいです。」と、参加者の気持ちを代弁された講師のことばで始まりました。

保育園や老人施設など各施設から集まった参加者は、子どもやお年寄り等ご利用者の安全を守るための基本的な心構えや、職員間の連携の重要性を学んだ後、刺股を使つての実技指導を受けました。不審者役、取

り押さえ役に扮して、たがいに入りが格闘しながらの場面も見られました。

最後に講師さんは、「防犯には何といつてもとっさの判断と、敏速な行動がとれるようになることが不可欠、そのためには、繰り返し訓練をして体で覚えておくことが大切です」と強調されました。



実技指導の様子

大きな 変革の中で 今、「かしの木ひろば」は…

障害者福祉の世界は今、大きな変革期を迎え、「かしの木ひろば」も決して例外ではなく、大変厳しい状況に置かれています。しかし、何とかこれからも「かしの木ひろば」をご利用していただけるよう、様々な事業を模索しています。今回はその中から、利用者の就労支援活動として取り組んでいる二つの事業を紹介します。

ひとつは、さをり織りです。思いの糸を選んで織り機でどんな織物を作ります。そして織りあがった生地をボランティアの皆様に縫製していただいて、ストラップや財布、ブローチなどの小物等に加工します。できあがった作品は現在、「伊賀ドライブイン」、「道の駅あやま」の店頭に置かせていただいております。中でも、さをりとビーズで作った人型のストラップは人気があります。お出かけの際はぜひお立ち寄りいただき手にとってご覧ください。



▲“さをり”生地で作った作品

もうひとつは、プラスチックのシュガーポットや、薬を仕分けるケースなどの仕上げ作業です。業者の方にも「みなさんの頑張りには驚かされています。当初の予想を上回るペースで、とてもたよりになる戦力です。」と声をかけていただき、作業にもますます熱が入ります。疲れも見せず、休み時間にも惜しんで作る方、「指先を動かすので、頭の体操にもなる。」とリハビリ感覚で参加する方、やるべき仕事があり、頼りにされているという充実感で参加する方など、皆さん気合いをこめて、それぞれが毎日の作業を楽しみ、爽やかな汗を流してくれています。

お知らせ
平成十八年八月十九日(土)
にぎわいフェスタ「菜市」にて、ご利用者の作品等を出店いたします。どうぞご来店ください。
場所・銀座中央駐車場向かい
うえのフオートさん前



作業に熱が入ります

音訳ボランティア活動の紹介

発刊250号を越えた「声の中日春秋」

上野点字図書館では、今から十年前、中日新聞のコラム「中日春秋」の録音を発刊することになりました。当時は、朝日新聞の「天声人語」、毎日新聞の「余録」など、いわゆる全国紙のコラムの録音版は全国の点字図書館で製作・貸出が行なわれていたもので、当館では、全国で製作されていない中日新聞のコラム「中日春秋」の録音版

を製作することになりました。現在は音訳ボランティア二十名の方々に製作を担当していただいております。平成八年十一月の第一号発刊後一度の休刊もなく、平成十八年六月二十二日現在、第二五一号まで発刊しています。

全国的にも当館にしか所蔵していない作品で大変貴重ですが、これまでのカセットテープ録音のままでは音の劣化が進んでしまっていますので、劣化しないうちにデジタル化を進めようと、昨年頃からコンパクトディスク録音(CD録音)への切り替え作業に取り組んでいます。毎週三名のボランティアの方々に、録音されたテープ音声パソコンに取り込む作業をしていただいております。一枚のCDに五十号ごと(約四十二時間)の音声取り込みと、それに伴う編集作業でテープ録音のCD化が進められています。携わっていただく多くの音訳ボランティアの貴重な時間と労力をいただいていることに深く感謝するとともに、完成した貴重なCDは、これまでと同様、大切に保管し、多くの方々にご活用いただければと思っています。

「中日春秋」声のコラムに

録音図書します

三上野点字図書館



「声の中日春秋」を収録したCDのジャケット写真

お知らせひろば

ご支援ご協力いただいている方々
(平成十七年十二月～平成十八年六月)

《個人》

—敬称略・五十音順—

東 政夫、井岡 昭、石原 京子
稲森 學、稲森 光子、犬飼 常教
猪木 千里、上田 進、上野タエ子
太田 久子、大野 利江、岡森 金一
小川 茂子、小川 秀貴、奥田 英夫
奥田やえ子、川浪 玲子、北泉 優子
北出 悦子、久米 光子、櫻 悦子
小林ふじ智、櫻井 治男、澤山 正治
清水 栄子、杉本 金治、杉本ちえみ
角田 宗成、曾我 宏三、空森 栄幸
竹島 和実、田中美代子、谷本 善
玉川 弘毅、玉台 正和、田山紗知子
辻本 勝次、戸高 久昭、富田 幸治
豊田 實、中井 克明、中坂 寛宏
長町 尚格、中森 勇、中森 知
中山 洋美、西田 誠、西出 成子
西出 孝子、西村 楠一、長谷川かよ子
浜口 隆志、浜口 晴、林田 治三
広瀬 亮宗、福田三重子、藤井 恵美
藤森 三重、前川 健一、前川 悟
前川 重孝、松永 幸子、南出 寛三
南出 恒久、森岡 佑子、森下 弘子
森田 満枝、森 令子、矢倉 昌
保田 信治、安田 裕子、山口 徳平
山口 義美、山添 稔、山出 和夫
山本 進、山本 浜子、吉川恵喜子

《団体》

—敬称略・順不同—

ボランティアグループあゆみ、
ボランティアグループミックスユース、
ボランティアもこもこ、
上野点訳奉仕グループあい、
名張点訳奉仕グループあかり、
上野音訳グループしのび、
名張音訳グループこたま、

絵手紙いろは、カマキリ部隊、伊賀市
上野東部市民センター、大滝地区、
小田町公民館、小田町自治会、桂地区、
桑町自治会、白樺地区、寺町自治会、
長田公民館、長田地区住民自治協議会、
治田地区、花之木公民館、
花之木児童福祉会、花之木地区委員会、
古山市民センター、古山地区、
古山地区長会、三田公民館、
三田地区自治連絡協議会、
予野地区、花垣地区民生児童委員、
古山地区民生児童委員、
三重県共同募金会、
伊賀市更生保護女性の会上野支部、
神戸老人クラブ連合会女性部、
上野視覚障害者福祉会、
上野商工会議所、
上野ロータリークラブ、
上野東ロータリークラブ、
国際ソロプチミスト三重アイリス、
日本福祉大学、皇學館大学、
コーラスグループサラダ、コールぴゅあ、
混声合唱団コーロ・G・U、
光都の会、蕉門ホール「語り部塾」、
白百合の会、翠鳳庵、美しく老いる会、
下友生地区老人クラブ、寺町老人会、
徳居町老人クラブ、福居町老人クラブ、
伊賀市上野仏教会、上野聖ヨハネ教会、
黒住教上野中教会所、
天理教島ヶ原大教会、
日蓮宗法音寺上野支院安立寺、
平井神社、西田整形外科医院、
広瀬医院、上野遊技業組合、
西尾デンキ、奥田理容店、
伊賀北部農協長田ふれあい店、
伊賀北部農協中ふれあい店、
伊賀北部農協古山ふれあい店、
小川整備、小川モーターズ、寿被服、
コメリ、朗天狗

日盲社協

奉仕者表彰

去る六月二十六日・二十七日の両日、千葉県で開催された第五十四回全国盲人社会福祉施設大会において、上野点字図書館音訳ボランティアの武田ルリ子さんが、奉仕者表彰を受賞されました。武田さんは、上野点字図書館で実施した音訳奉仕者養成講習会を修了され、デジタル録音図書の製作十八タイトル、音訳図書の校正十三タイトル六十二巻、テープ雑誌や市広報誌の音訳および盲養護老人ホーム梨ノ木園での対面朗読などの活動でご活躍いただいております。武田さんには心からお祝いを申し上げますとともに、多年の奉仕活動に深く感謝申し上げます。



音訳ボランティア活動が13年になる
武田ルリ子さん

平成17年度 当法人の決算諸表 (公益事業会計含む)

資金収支計算書 (円)

勘定科目	決算額
經常活動による収入計	2,083,594,176
經常活動による支出計	1,958,961,198
經常活動資金収支差額	124,632,978
施設整備等による収入計	20,740,000
施設整備等による支出計	47,617,547
施設整備等資金収支差額	-26,877,547
財務活動による収入計	19,470,000
財務活動による支出計	57,907,382
財務活動資金収支差額	-38,437,382
当期資金収支差額合計	59,318,049
前期末支払資金残高	94,915,742
当期末支払資金残高	154,233,791

事業活動収支計算書 (円)

勘定科目	決算額
事業活動収入計	2,220,767,500
事業活動支出計	2,135,201,092
事業活動収支差額	85,566,408
事業活動外収入計	99,928,477
事業活動外支出計	100,015,027
事業活動外収支差額	-86,550
經常収支差額	85,479,858
特別収入計	20,740,000
特別支出計	11,806,101
特別収支差額	8,933,899
当期活動収支差額	94,413,757
前期繰越活動収支差額	577,890,483
当期末繰越活動収支差額	672,304,240
基本金取崩額	0
基本金積立額	0
その他の積立金取崩額	11,470,000
その他の積立金積立額	47,437,382
次期繰越活動収支差額	636,336,858

貸借対照表 (円)

資産の部	
流動資産	326,595,359
固定資産	2,793,360,683
基本財産	1,902,204,681
その他の固定資産	891,156,002
資産の部合計	3,119,956,042
負債の部	
流動負債	291,406,881
固定負債	187,658,101
負債の部合計	479,064,982
純資産の部	
基本金	111,354,259
国庫補助金等特別積立金	1,317,250,312
その他の積立金	575,949,631
次期繰越活動収支差額	636,336,858
純資産の部合計	2,640,891,060
負債及び純資産の部合計	3,119,956,042

施設案内

「地道に七十五年間、地域の子育て」

曙保育園

曙保育園は昭和六年、民間有志の方々により「上野町託児所」として、定員三十名で開設されました。そして昭和二十三年、上野市社会事業協会（現・伊賀市社会事業協会）の設立に伴い、当園の経営は現法人に引き継がれました。

当園は開設当初から、子どもの健全育成を中心に、保護者の育児と就労の両立支援に積極的に取り組んできました。



▲園舎全景
城下の町並みに溶け込んでいます

▼曙保育園正面



平成十二年九月、上野忍町から現在の上野徳居町への移転を機に「うえの子どもセンター」として、多岐にわたる保育ニーズに対応できる多機能保育園になりました。低年齢児保育、延長保育、一時保育、休日保育、学童保育、地域子育て支援センター「すくすくらんど」更には、オリジナル事業として本とおもちゃルーム「ぐるんぱ」を開設して、地域の親子にふれあいの場を提供し、子育て相談を受け付けています。

園舎は、地域の方々の強い要望もあり、旧家の蔵、土塀、門を修復再生して城下町の景観に配慮した和風建築になっています。地域の方々には「懐かしい町並みが戻ってきた」と喜んでいただいております。園舎移転後早速、老人クラブの皆様と、子どもたちとの交流が始まりました。子どもたちは、お年寄りから昔のお話を教えていただき、また一緒に伝承遊びをして楽しいひと時を過ごしています。交流を通して、お年寄りの優しい心にふれながら、学ぶ楽しさを育んでいるようです。

曙保育園は、今後も子育て支援センターとして、地域に愛され信頼される保育園となるよう、日々努力してまいります。

▼老人クラブの方に笹舟の作り方を教わる曙保育園の子どもたち



新任職員研修会

6月3日、曙保育園・ひまわりホールにおいて平成18年度学卒採用職員39名を対象として、新任職員研修会を開催いたしました。今回の研修会は、「伊賀市社会事業協会のあゆみ」「ビジネスマナーの基本」「人生の中の福祉」というテーマの講義と、当法人が経営する施設の見学研修を行ないました。「ビジネスマナーの基本」では、名刺の交換や電話の応対などを実際に体験し、真剣な眼差しで取り組んでいました。

研修を終えた職員は、福祉の専門分野だけでなく、広く社会情勢に耳を傾け、今後も自己研鑽に努めていこうと心を新たにしました。



ビジネスマナーの基本を学ぶ新任職員（ひまわりホール）

編集後記

もくもくと湧き上がる入道雲が、早くもはけで砂を掃いたようなすじ雲に変わり、上空では秋の装いが始まりました。

季節が変わるごとく福祉分野もいやおうなしに直接契約システムという改革の波にのみ込まれてきています。

厳しい福祉の流れの中、本質を見誤ることなく、地域福祉の充実に向け、全職員英知を結集して歩んでいきたいと思ひます。
(編集子)